

当法人における

訪問によるリハビリテーションの実態調査

清水 美穂(OT)^{1, 2)}, 山田 早織(OT)^{1, 2)},
小林 奈都子(PT)^{1, 2)}, 板垣 沙織(PT)^{1, 2)},
尾崎 千晶(PT)^{1, 2)}, 北上 守俊(OT・ST)³⁾,
荻荘 則幸(MD)¹⁾

1)ゆきよしクリニック

2)ゆきよし訪問看護ステーション

3)新潟県障害者リハビリテーションセンター

Key Words : 訪問リハビリテーション, 訪問看護, 地域

【はじめに】当法人は平成12年より診療所からの訪問リハビリテーションを開始し、平成24年に訪問看護ステーションを開設した。訪問地域は、新潟市（西蒲区を除く）を中心に新発田市、阿賀野市、五泉市である。作業療法士10名、理学療法士20名、言語聴覚士1名が訪問業務に従事している。今回、当法人での訪問によるリハビリテーション（以下、訪問リハ）利用者の実態調査を行った。【調査Ⅰ】対象は平成28年4月1日時点での訪問リハ利用者449名とした。調査項目は性別、年齢、介護度、疾患、訪問頻度、居住地、訪問期間とした。【調査Ⅱ】対象は平成27年11月1日～平成28年5月31日に訪問リハを開始した利用者89名とした。利用目的を身体機能維持・向上、基本動作練習・助言、ADL練習・助言、IADL練習・助言、環境調整、自主練習の助言、言語訓練、嚥下訓練、就労支援、その他に分類し調査した。

【結果：調査Ⅰ】男性196名、女性253名、平均年齢71.4±18.9歳（最大値：98歳、最小値1歳）だった。訪問期間は1年未満24%、15年以上は1%だった。訪問頻度は週1回68%と多く占めていた。疾患は脳血管疾患42%が最も多く、次いで運動器疾患23%だった。【結果：調査Ⅱ】利用目的は「身体機能維持・向上」「基本動作練習・助言」が半数を占めていた。【まとめ】本調査では訪問リハの利用が長期化していることがわかった。利用目的においては「身体機能維持・向上」が多く、活動や参加を目標とした利用者は少なかった。介護保険下における訪問リハの目的は、利用者の能力に応じ生活機能の維持改善に働きかけ、積極的に活動や参加を促し自立促進を図るサービスだといわれている。生活行為向上マネジメントを活用し目標を明確にし、活動や参加に焦点を当てた介入ができる作業療法士が地域では求められている。【最後に】本調査は1施設の見解であるため、他事業所の現状について情報交換したい。